

## 全国在宅療養支援診療所連絡会 第1回全国大会 プログラム別詳細

タイトル	ドラマを用いたフロアディスカッション形式シンポジウム 「本人の生き方に向き合う医療を目指して」
日時	平成26年3月22日(土) 16:00~18:00
会場	サブホール(503)
演者	紅谷浩之 (連絡会世話人・オレンジホームケアクリニック) 市橋亮一 (連絡会会員・総合在宅医療クリニック) 永井康徳 (連絡会世話人・大会副実行委員長・たんぽぽクリニック)
企画の趣旨・概要	<p>全国の3つの診療所が実際の患者様のケースを元に3本のオリジナルドラマを製作します。ドラマは各診療所内の有志で結成された劇団が登場人物を演じます。劇団員は、皆、素人ではありますが、練習を重ねてよりわかりやすいドラマとなるよう頑張りたいと思います。ドラマのテーマは「本人の生き方に向き合う医療を目指して」というテーマに合わせて脚本を考えたいと思います。</p> <p>福井県の在宅医療専門診療所オレンジホームケアクリニックからは、神経難病患者のケースをドラマで提示します。筋萎縮性側索硬化症の患者様は、診断や予後の告知、治療法の選択、胃瘻栄養をするかどうかの選択、気管切開をするかどうか、人工呼吸器をつけるかどうかなど、症状の進行に伴い、様々な選択の必要が出てきます。</p> <p>次に、岐阜県の在宅医療専門診療所総合在宅医療クリニックからは、癌末期患者のケースをドラマで提示します。癌末期の患者様は、癌の告知の問題、治療法の選択、積極的治療を受けるか緩和ケアを受けるか、療養場所の選択、予後の告知の問題、最期は輸液をするかどうかなど様々な選択の必要が出てきます。</p> <p>さらに、愛媛県の在宅医療専門診療所たんぽぽクリニックからは、非癌患者の看取りのケースをドラマで提示します。非癌の患者様の看取り期は、たべられなくなったらどうするか、胃瘻栄養をするかどうか、どこで療養するか、食べたいと思う気持ちをどう満たせていけるか、最期は自然にみるかどうかなど様々な選択の必要が出てきます。</p> <p>その時々において、本人の意志がしっかりしている間は本人の意志を尊重し、また、本人の意志がはっきりしない場合は、本人の生き方にしっかりと向き合って、本人と周囲の家族にとって最も満足のいく選択肢を選択するためにどのようなことを考えなければならぬのかをそれぞれのケースドラマを見ながら考えたいと思います。ドラマを見た後に、フロアの方々と一緒に意見交換をしたいと思います。</p> <p>本人が自分の意志を表出できない場合でも、周囲の周囲の医療、介護従事者、家族の考えだけで選択肢を決定するのではなく、「本人にとって、この選択は最善かどうか」に思いを馳せて選択をすることが必要だと思えます。ただ余命の延長だけを追求する医療ではなく、避けられない死から目を背けず、患者にとっての幸せや生き方に向き合う医療を目指して、皆様と意見交換できればと考えています。</p>

(敬称略)